

企業における自然災害リスクとその対応セミナー

激甚化する自然災害に備える

開 催 : 2018年9月6日(木) 受付 13:00~ , 講演開始 13:30~

会 場 : 東京コンファレンスセンター・品川

主 催 : 株式会社イー・アール・エス , 応用アール・エム・エス株式会社

協 賛 : 鹿島建設株式会社

参加費 : 無 料



開催内容

日 時 : 2018年9月6日(木)

受 付 : 13:00より

セミナー : 13:30~16:50

会 場 : 東京コンファレンスセンター・品川

5階 大ホール

定 員 : 350名

主 催 : 株式会社イー・アール・エス

応用アール・エム・エス株式会社

協 賛 : 鹿島建設株式会社

◇ 参加申込方法

下記 Web サイトから参加申込を行ってください。

その場で受講証を発行いたします。

<http://www.ers-co.co.jp/>

<http://www.oyorms.co.jp/>

※ 締 切 2018年8月30日(木)

セミナー当日は受講証とお名刺を1枚ご持参ください。

申込者多数の場合、先着順とさせていただきます。

ご了承ください。

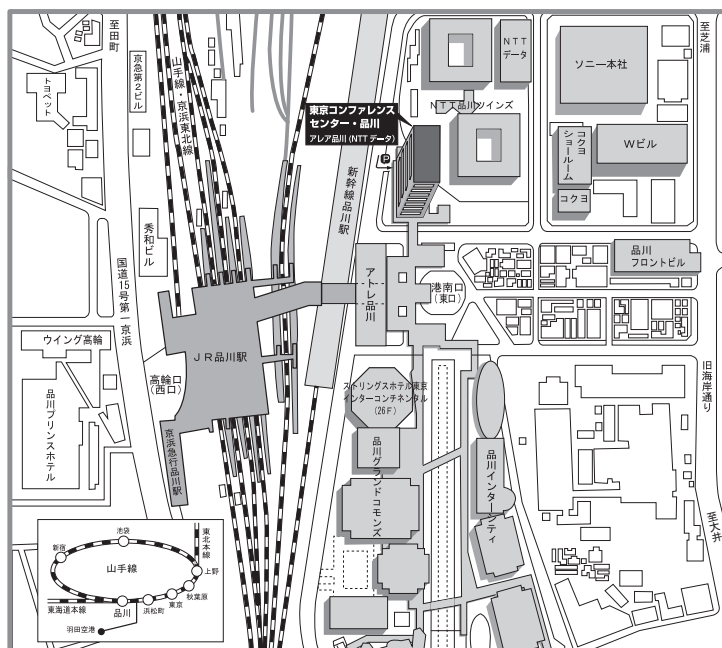
◇ お問い合わせ先

(株)イー・アール・エス

TEL:03-5786-0090 FAX:03-5786-0094

応用アール・エム・エス(株)

TEL:03-6434-9801 FAX:03-3479-0163



会場

東京コンファレンスセンター・品川

〒108-0075 東京都港区港南1-9-36

アレア品川 5F 大ホール

TEL: 03-6717-7000 FAX: 03-6717-7001

<http://www.tokyo-cc.co.jp>

交通

● 電車でのアクセス

JR 品川駅港南口(東口)より徒歩2分。

駅からペDESTリアンデッキで直結しています。

● お車でのアクセス

首都高速1号羽田線芝浦ランプから約2km。

近隣の公共駐車場をご利用ください。

企業における自然災害リスクとその対応セミナー

激甚化する自然災害に備える

ご挨拶

首都直下地震や南海トラフ巨大地震など大規模地震の発生が懸念されており、企業においては地震対策の実施や、事業継続計画（Business Continuity Plan: BCP）の策定といった取り組みが推進されています。また近年は、豪雨による水害や土砂災害、火山の噴火など、さまざまな自然災害が頻発しており、そのリスクが顕在化しています。今年度のセミナーでは、これら自然災害のうち、地震と水害（外水氾濫、内水氾濫、高潮）を対象にした、最近の取り組みをご紹介します。

前回同様、技術・サービス紹介のパネル展示も予定しています。本セミナーが皆様のリスクマネジメントの一助となれば幸いです。ご多忙中のこととは存じますが、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

2018年7月吉日

株式会社イー・アール・エス／応用アール・エム・エス株式会社

プログラム

時間	内容	概要
13:00-13:30	受付／開場	
13:30-13:40	主催者 開会の挨拶 応用アール・エム・エス(株) 代表取締役社長 山田 敏博	
13:40-14:10	BCM/BCPに係る 各時間フェーズにおける地震対策 イー・アール・エス 望月 智也	BCM/BCPでは発災後の対応はもちろんのこと、事前対策を適切に行うことも重要です。本講演では、事前対策の検討に効果的な耐震ウォークダウンや地震リスク評価とその活用方法、地震発生直後に有効な建物安全性確認システムやその後の復旧対応まで、各時間フェーズで実施すべき総合的な対策についてご紹介します。
14:10-14:40	地震動の周期による影響と 長周期地震動の特性について 応用アール・エム・エス(株) 小丸 安史	最近、「長周期地震動階級」という指標が気象庁から発表されているのはご存知ですか？「長周期」ということで「短周期」と区別していますが、そもそも地震動の周期はなぜ重要なのでしょうか？本講演ではそのような観点を踏まえ長周期地震動の特性について過去の地震の事例を基にご紹介します。
14:40-15:10	建物を地震から守る構造技術 鹿島建設(株) 栗野 治彦	鹿島建設には、30年以上にわたる制震・免震構造の研究開発の歴史があり、立地や建物種類・特性に応じ、常に最適なソリューションをご提供できるよう、今なお進化を続けています。ここでは、様々な地震動に対する対策のメカニズムも解説しながら、新築だけではなく既存建物の制震リニューアル技術などを幅広くご紹介します。
15:10-15:40	コーヒーブレイク	(パネル展示も併せてご覧ください)
15:40-16:10	高潮による浸水ハザード評価 応用アール・エム・エス(株) 若浦 雅嗣	昨今、スーパー伊勢湾台風等、想定最大クラスの台風による沿岸部の高潮浸水被害が懸念されています。台風の想定とモデル化、高潮シミュレーションを用いた潮位予測と波浪モデルによる有義波高推算、さらにはそれらに基づく越波・越流量と確率降雨を考慮した浸水評価手法についてその概要をご紹介します。
16:10-16:40	企業における水害リスク評価と 対策検討の事例紹介 イー・アール・エス 黒田 育実	毎年のように発生し、気候変動によりさらなる激甚化が懸念されている水災害に対し、企業は従業員の人命保護や事業継続等の対応が求められています。本講演では、予測・予防・発災後対応の時系列を見渡し、水害対策を検討する上でのポイントとERSが提案するコンサルtantメニューの一部をご紹介します。
16:40-16:50	主催者 閉会の挨拶 イー・アール・エス 代表取締役社長 古澤 靖彦	

参加申込要領

下記のホームページにアクセスし、参加申込フォームに必要事項をご記入の上、お申し込みください。
申込完了後、「受講証」が表示されますので、プリントアウトして当日ご持参ください。

また、事務局より申込受付済のEメールが送信されます。申込受付メールが届かない場合などございましたら、下記お問い合わせ先までご連絡ください。

株式会社イー・アール・エス ホームページ

<http://www.ers-co.co.jp/>

応用アール・エム・エス株式会社 ホームページ

<http://www.oyorms.co.jp/>

セミナー当日には、受講証およびお名刺 1 枚が必要になりますのでご持参ください。

なお、ホームページにアクセスできない、また参加申込フォームでの登録ができない場合は、会社名/所属団体名、ご参加者名、部署名、役職名、住所、電話番号、FAX 番号をご記入の上、下記のお問い合わせ先まで FAX でご連絡ください。

折り返し、FAX にて受講証を送付いたします。

申込者多数の場合、先着順とさせていただきます。ご了承ください。(定員 350 名)

■お申し込み締切 : 2018年8月30日(木)

お問い合わせ先

株式会社イー・アール・エス

〒107-0052 東京都港区赤坂 4-9-9 赤坂 MK ビル

TEL: 03-5786-0090 FAX: 03-5786-0094

応用アール・エム・エス株式会社

〒107-0052 東京都港区赤坂 4-9-9 赤坂 MK ビル

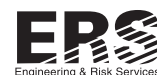
TEL: 03-6434-9801 FAX: 03-3479-0163

主催者紹介

【株式会社イー・アール・エス】 <http://www.ers-co.co.jp/>

設立 1998年11月

株主 鹿島建設株式会社、応用地質株式会社



事業内容

- ・地震、台風などの自然災害リスク分析サービス
- ・不動産の証券化などにとまなう建物のエンジニアリングデューデリジェンス
- ・土壌汚染、アスベストなどの環境リスク診断
- ・省エネ診断、再生可能エネルギー施設のデューデリジェンス・開発支援

特色と実績

災害リスクのエンジニアリング評価・分析分野のパイオニア企業として、特に、生産工場施設に対する地震などの自然災害リスク分析では、高いエンジニアリング力が評価され、多くの実績があります。また、J-REITなどの証券化ビルのエンジニアングレポート作成についても多くのシェアを有し、ガイドライン作成をはじめ業界のオピニオンリーダーとして格付機関などからも高い評価を得ています。

【応用アール・エム・エス株式会社】 <http://www.oyorms.co.jp/>

営業開始 1998年5月（分社のため設立は2006年11月6日）

株主 応用地質株式会社、Risk Management Solutions, Inc.（以下、米 RMS 社）



事業内容

- ・地震、台風などの自然災害リスク分析サービス
- ・企業の自然災害リスク管理に関するアドバイザリーサービス

特色と実績

米 RMS 社が開発した RiskLink®（自然災害リスク評価システム）※に応用地質（株）が保有する地質・地盤データを組み込んだ RiskLink®日本モデルを活用し、企業の地震リスク対策の提案、投資用不動産や所有物件などのポートフォリオ地震リスク分析、地震保険加入の際のリスク把握など、企業のリスクマネジメントに係る様々なサービスを行っております。また、高潮・竜巻・火山災害など近年関心が高まっている自然災害リスクに対する研究開発・評価にも積極的に取り組んでいます。

【両社の関係】

顧客のあらゆるニーズに応えるべく、お互いの得意分野を補完しあい、相互に協力して、自然災害リスクマネジメント事業を推進しています。

主として、応用アール・エム・エス（株）は多数の保有資産のリスクを対象としたポートフォリオ分析を、（株）イー・アール・エスは個別企業、個別建物のリスク分析を得意としています。

※RiskLink®について

米 RMS 社（スタンフォード大学が母体となり1988年に設立された自然災害リスクマネジメント専門会社）が開発した自然災害リスク評価システム。世界中の様々な自然災害モデル（日本のモデルは地震と台風）を完備し、世界の自然災害に関わる損害保険契約の8割以上で利用され、この分野での世界標準となっています。